

<金標準、ドル高や悪材料織り込みから巻き戻しの 23000 円・・・>



(出所：オアシス)

ケビン・ウォーシュ氏がFRB議長に就任し初めてのFOMCで、FFレート誘導目標を3.5%～3.75%へ据え置きを決定している。ただ経済見通しでは、9名が年内の利上げを示唆し、6名は2回の利上げを示唆している。また他の9名が金利据え置きを示唆している。特に3月には利上げ示唆が0名に対して9名が示唆し、12名の利下げ示唆が1名となるなど、タカ派を示唆する内容になっている。そのため12月までの利上げ確率が50%まで引き上げられるなど「金利を生まない金」にとって悪材料となっている。また米国とイランの60日間の停戦協議の覚書で合意を示すも、イスラエルとヒズボラの報復攻撃が激化し、イランがスイスで行われる予定であった署名を延期した事から原油高：ドル高の動きを受け、金標準先物は、一時安値21232円から巻き戻しの動きを示すも再度売られて21861円まで下値を試している。しかし悪材料も織り込み済みであり、そのため売り込まれ過ぎた価格が自律反発の域に入る可能性は高まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルは下げ止まっている。RCIは短期が切り上げ、長期は維持している。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを上回る動きへ移行すると23000円へ向けて戻りを見せて来ると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,320,000 円(2026 年 6 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 6 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>